

上条 報告

第51号
平成25年8月

甲州市教育委員会
☎32-5097

彦根城、長浜城とその城下町

滋賀県というと、日本最大の湖である琵琶湖を思い浮かべますが、奈良・京都に近い土地柄、歴史的な風景が大変よく残されているところなのです。

琵琶湖は、その面積の大ききゆえ、人々の生活に多大な影響を与えており、地理的な制約も課しています。彦根城は国宝に指定されている名城ですが、関が原や伊吹山を越えて滋賀に入ると琵琶湖にぶつかり、京都方面に南下すると彦根城の城下町に入りますので、彦根城の位置は琵琶湖による地理的な制約を上手に利用したものといえます。

琵琶湖畔に建つ長浜城は、昭和五十八年に復元されたものですが、長浜の城下町は琵琶湖の水運で発達したものであり、鉄道開通後は滋賀県の南北と他地域を結ぶ分岐点として物流が盛んでした。ここではまちづくりとして、「黒壁」と呼ばれる土蔵群を店舗にするなど利活用し、それが定着したため、毎年多くの観光客が訪れています。

古都・京都の
一歩手前で奮闘
している彦根・
長浜の両市につ
いてご紹介しま
す。



ご存知、彦根城のひこにゃん。

国宝・彦根城

彦根城は、初代彦根藩主・井伊直政の嫡子である直継・直孝によって築城され、元和八年（一六二二）に完成しました。天守閣は慶長十二年（一六〇七）ころの完成といわれています。

昭和二十七年に国宝に指定されましたが、現存する国宝の天守は、彦根、姫路、松本、犬山の四城だけで、それだけでも大変貴重な城であることが分ります。

城の小山を囲む内堀、中堀がよく残されており、彦根市の都市計画で歴史的風致が護られています。

彦根城の城下町

城下町は広範囲に渡り所在していました。城北側はかつて松原内湖と呼ばれ、琵琶湖の一部でしたが、東・西・南側には当時の町割が、名前とともによく残っています。



彦根城の天守。国宝です。



天秤櫓と櫓にかかる木橋。



夢京橋キャスルロード。統一感があります。

彦根市では、古い町並みを調査して再評価し、伝統的建造物群保存地区に選定するなどの作業を進めています。

一方、京橋通りという南下する道路に沿った一角は、国土交通省の事業により街路整備が行われ、歴史的な町並みの景観を創造しつつ、新たな商業地として注目されています。



商店の様子。ウェディングドレスが展示されています。

京橋通りの南側は、足軽組屋敷が密集する地区です。軽乗用車しか通れないような細い路地で、所々に防衛のための「筋違い」が見られます。一口に城下町といっても、防衛や商業など、多様な機能をもったエリアの集合体であることが、彦根を見れば理解できます。



足軽組屋敷の路地。

彦根城とまちづくり

彦根城は彦根市のシンボルであると同時に、世界に情報を発信する源でもあります。市では彦根城を世界遺産に登録するための取り組みをしていますし、伝建などの調査や京橋通りのような街路整備も平行して実施しています。

どんな整備をしても、その根底にあるのは、彦根城の歴史的景観と調和させるということです。

長浜城

長浜市は琵琶湖が最も東に張り出したところにあります。古くから琵琶湖の水運の拠点として栄えた地です。長浜城は、この水運に目をつけた羽柴秀吉によって、天正二年（一五七四）に築城が始まりました。



再建された長浜城（長浜城歴史博物館）。

その後の騒乱の過程で、城主は目まぐるしく変わり、早くも元和元年（一六一五）に、湖北支配の役割を彦根城に譲って廃城されました。そのときに石垣や櫓材などは彦根城に運ばれ使用されたといわれています。現在の長浜城は、昭和五十八年に再建されたもので、長浜城歴史博物館として利用されています。

長浜城と城下町

現在のまちの中心部は、秀吉が築城した長浜城に形成された城下町が基盤となつていますが、比較的早く廃城となつたため、その後は真宗大谷派・長浜別院大通寺の門前町として栄えました。

長浜には北国街道が通っており、琵琶湖の水運だけでなく街道を使った物資の往来も盛んでした。



大通寺（正面）と参道。

長浜のまちづくり

鉄道が敷かれ国道が整備されると、水運は廃れてしまいました。明治以降は北国街道に第三百三十銀行長浜支店が建てられるなど、商業はますます発展していきました。この銀行は、黒漆喰の外観から「黒壁」と呼ばれてきました。

どこもそうですが、地方の中心市街地はやがて衰えていきます。長浜も例外ではありません。昭和六十三年に有志が集まり「黒壁」を買収、ここを拠点にガラス細工の生産や販売を始めました。運営が順調に進んだ結果、この一帯は体験工房やレストランなども備えた一大観光地「黒壁スクエア」となり、年間二〇〇万人が訪れるようになりました。黒壁スクエアに多くの観光客が集まった結果、周辺の商店街も活気を取り戻し、碁盤の目のような通りはどこも観光客が散策しています。



黒壁スクエアの中心・黒壁。



古い建物ですが、イタリアンレストランが入ります。



店先のところてん。

滋賀県の城といえば・・・

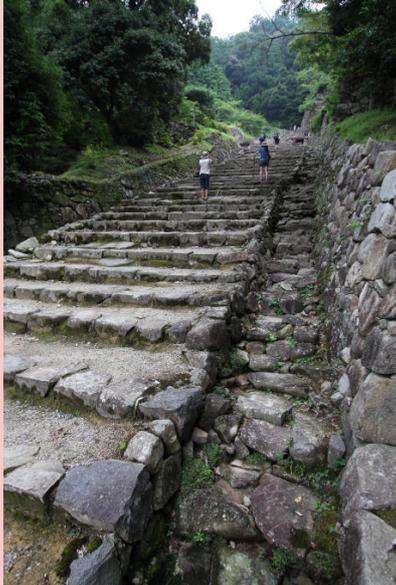
特別史跡 安土城跡

安土城は、織田信長が天下統一を目標に天正四年（一五七六）、標高一九九メートルの安土山に築城した平山城で、岐阜城よりも京に近い利点がありました。現在は四方とも陸地ですが、当時は琵琶湖の内湖に囲まれ、南側だけが開けた地形でした。

三年後の天正七年、わが国で初めて天守閣をもつ安土城が完成しています。さらにその三年後の天正十年（一五八二）六月二日、明智光秀の謀反によって信長は、京都・本能寺で自刃、その後の混乱で安土城は焼失し、落城してしまいました。

天守閣は、五層七階（地下一階、地上六階）という規模で、イエズス会の宣教師ルイス・フロイトによれば、ヨーロッパにもない壮麗さだったといわれています。

発掘調査の結果を踏まえて、現在では天守に続く大手道や、羽柴秀吉の居宅と伝えられている場所などが整備されています。大手道は幅六メートル、長さ一八〇メートルを測り、天に続いているかのよう



大手道を下から見上げたところ。両側の石垣上には築地塀が立っていました。

に
思
え、
信
長
の
権
威
を
垣
間
見
る
こ
と
が
で
き
ま
す。